

Morning Report 症例発表ガイド

30分と限られた時間の中で効率よく明日からの診療にいかせるような「使える」成果を得ることが目標

症例発表&ディスカッション

「後医は名医」発表者を責めるのではなく、どうしたら次回にいかせるか建設的な意見を
手痛い失敗症例ほどみんなのためになる。勇気をもって発表を

発表者は発表前にフォーカスとしたい事項を宣言するとよい

病歴からの鑑別診断の列挙か、レントゲンの読影か、難症例を共有したいのか、など

発表者:

1. フォーマット(主訴、現病歴、既往歴...)に従い、分かりやすくスムーズな発表をする
2. 反省点、自分の得た教訓を述べ、できればパールを披露する
3. フィードバックをもらい、次回からの診療に活かす

参加者:

1. 事前に送られるメールを確認し、鑑別診断とアプローチを考えておく
2. 症例を疑似体験し、鑑別診断、病歴の追加事項、診察の組み立て、検査を考える
3. 救急では時間は限られる。「なぜその病歴 or 診察 or 検査が必要なのか」説得力のある根拠とともに自分の意見を述べる
4. 自分が担当したつもりで血液検査、画像を系統的に読み取り、所見を述べる

司会者:

1. 所々で質問をはさみ、ディスカッションを盛り上げる
2. 適切な時間配分をし、時間内に終わらせる

監督:

1. 発表者に足りない知識理解を適宜補ってください(ワンポイントレクチャーなど)
2. ディスカッションの締めに、診療上よかった点、次回よりの改善点を教えてください

マイナー系、外科系 Dr 依頼

火曜日担当ではその前の金曜日に、木曜日担当では月曜日に監督 Dr.に連絡

以下のいずれの形式でもよい

- 1) 自分でレクチャーを作成し監督 Dr.に添削してもらう
- 2) テーマに沿った症例を用意し、監督 Dr.にコメントしてもらう
- 3) 特に教えて欲しい事柄を伝え、監督 Dr.にレクチャーを依頼する

監督 Dr.が来られない時のため簡単なテーマを用意しておく(DVD、症例集など)